

## 時過ぎて60年一旅と山と教室で出会った人たち① 大西清見

### はじめに

今回、一地理学徒として半世紀以上歩き続けて旅先や教室で出会った人たち、とりわけ私の人生に大きな影響を与えてくれた人たちについて語ってみたいと考えました。個人的には、この報告として私の60年を振り返ることで、またこれからの新しい人生のスタートが切れることを期待しています。また、この報告がみなさんにも新たなエネルギーになることができれば幸せです。

今回のタイトルの「時過ぎて60年」ですが、あとで述べますように、私が一地理学徒(当時は勿論少年ですが)として、本格的に地理路線のスタートを切ったのは小学4年生の10歳であると考えています。この10歳から古稀を迎えた今日までで丁度60年というわけです。

ところでこの60年、私はどのくらいの国々を歩いてきたのだろうか。また、登山を始めて20余年、どのくらいの山に登ったのだろうか。国にしてざっと35ヶ国、その大半は大学生の時、一年間旅したユーラシア大陸一周の時の国々が占めています。その後教員になってまた新たな発展途上国なども増えていきました。山はすでに幾つかの山行を越えて、北は北海道の山々から南の屋久島の山まで今も登り続けています。2007年の夏には、山仲間にも恵まれてヨーロッパ大陸最高峰のモンブラン(4010m)にも登頂することができました。今回はその旅や山で出会った人たち、また学んだ教室で出会った人たちのことをお話をして行きたいと思います。

### 恩師と友の一冊の本

小学校4年生から6年生にかけて画期的な出会いが待っていました。そのひとりが3年間、担任を持っていただいた井田寛先生です。私は小学3年生まで重い難聴で学校の成績は最悪でした。小学校4年生になって難聴もよくなり、新しく担任として来られた井田先生が私の個性を引っ張っていってくれました。井田先生はどの生徒にも公平に扱い、とくにそれぞれの個性を思い切り伸ばしてくれたと考えています。私もあることがきっかけで地理好きになり(小学校5年で当時の世界の国と首都を全部覚え、地名の知識だけでは先生を超えていたと思います)、社会科の授業でみんなが分からない時は、最後には必ず私を指名して下さいました。社会科のテストが少し悪くても、必ず「5」の評価を頂いたのです。いま小学校高学年の3年間の井田先生を振り返ってみると、クラスの生徒約50名が頭越しに怒られた記憶がありません。生徒の長所を更に伸ばし、個性を最大限尊重していく先生の教育方針があったからでしょう。ちなみにこのクラス50名のうち、のち国立大学3名、関々同立大2名が大学に進学して行きました。この頃、私の村からほとんど高校や大学に進学しなかった時代のことでしたから、先生の偉大さが分かります。(続く)

## ◇編集後記◇

『労山ニュース』2019年1月号、今年最後の編集後記になりました。この1年もパソコンの調子が悪く、よくも何とか続けてこられたなあ、と振り返っています。連盟の事務所も玉造から福島区吉野（JR野田駅）の機関誌協会会館に引っ越し、機関紙の印刷に何かとあれば、機関紙協会に高橋明代さんがおられるので心強いのも大きな支えになりました。来年も予定通り機関紙が発行できるように頑張っていきたいと思えます

12月に入って「今年に登った山、印象に残った山」を考えてみました。何と毎年のように出かけているアルプスがゼロ、大好きな東北の山がゼロだったのです。これには事情があったので、来年はアルプス、東北の山に積極的に向かっていきたいと考えています。さて、今年登った（歩いた）山に、特筆がひとつありました。11月に一挙に何と日本三大山城に行ってきたのでした。11月4日、備中松山城（岡山県高梁市）、11日、奈良県高取城、25日、岩村城（岐阜県恵那市）でした。これらの山城歩きについては、機関紙次号で報告しますが、やはり一番は天空の備中松山城でした、天候にも恵まれ、冷え込んだ4日の早朝に備中松山城の展望所に行くと、見事な雲海に山城がそびえていました。機関誌今月号の表紙（寺町清二氏撮影）がその一コマです。素晴らしい雲海の中の山城、臥牛山を経て備中松山城へも歩いて行くことができます。みなさんも来年、是非一度行ってみたい下さい。



11.4 雲海の中の備中松山城



現存する二重櫓、天然の岩盤に石垣も

\*\*\*\*\*

今月も各会より会報を送っていただきました。

安治川山の会ニュース（安治川山の会）、やまなかま（泉州労山）、きたろうニュース（きたろうHC）、にしよど（西淀労山）、ぽんぽん山（高槻）、奈良県連ニュース、滋賀県連ニュース、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、HCかざぐるま、京都労山、噴煙（鹿児島労山）、兵庫労山会報、県連ニュース（和歌山労山）

発行日 2018年（平成30年）12月17日 No.395

編集・発行 入澤、大西秀、笠井、園、高橋、中井、中尾、服部、大西清

\*\*\*\*\*